



本社・工場

第65期

第2四半期決算のご報告

平成28年8月21日～平成29年2月20日



 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地
TEL (076) 267-5111(代) FAX (076) 267-8065
URL <http://www.fuku.co.jp/>

福島印刷株式会社

証券コード 7870

株主のみなさまへ



代表取締役社長 しもはた 下島 まなぶ 学

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第65期第2四半期累計期間（平成28年8月21日から平成29年2月20日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策および日銀の金融緩和策等により、企業収益や雇用環境が改善するなど、景気は緩やかな回復基調で推移してまいりましたが、中国をはじめとする海外経済の減速や英国のEU離脱問題などを背景に、依然として先行き不透明な状況が続いております。

印刷業界におきましては、Web化等による印刷需要の減少、競争激化による受注価格下落の影響を受け、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は引き続き最新鋭の印刷機等設備導入により生産体制の強化を図るとともに、DP（データプリント）サービスの製品開発

やサービスの充実、販売マネジメントの強化による創注や原価構造改善に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は31億67百万円（前年同四半期比1.9%増）、営業利益は90百万円（前年同四半期比35.1%減）、経常利益は92百万円（前年同四半期比33.9%減）、四半期純利益は59百万円（前年同四半期比34.8%減）の増収減益となりました。

今後の見通しにつきましては、わが国経済は景気の回復基調が続き、個人消費が緩やかに持ち直すことが期待されますが、海外政治・経済情勢が懸念されるなど、景気の先行きは予断を許しません。

当社としては、引き続き最新鋭の印刷機等設備の導入により生産体制の強化を図るとともに、昨年2月稼働を開始した「さいたまサテライト」の有効活用や、独自技術によるDP（データプリント）を中心としたサービス強化を図

りながら、顧客のBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）ニーズの取り組み推進や、品質保証と情報セキュリティ体制についてもより一層強化することで、業績の向上を図る所存であります。

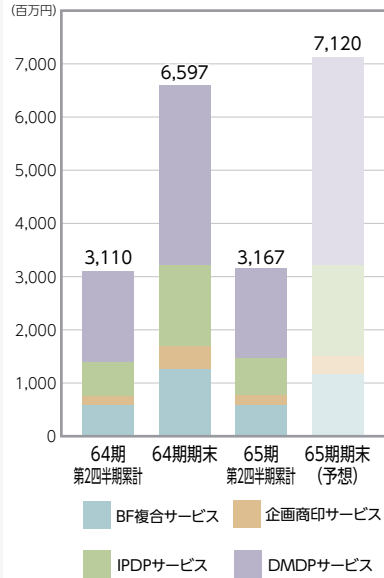
なお、通期の業績予想につきましては、売上高71億20百万円、営業利益1億28百万円、経常利益1億39百万円、当期純利益88百万円と見込んでおります。

また、中間配当につきましては、平成29年3月28日開催の取締役会において、1株当たり5円と決議しており、期末配当とあわせて年10円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

製品分野別売上高

製品分野別売上高



福島印刷の

4分野による複合サービスの実現

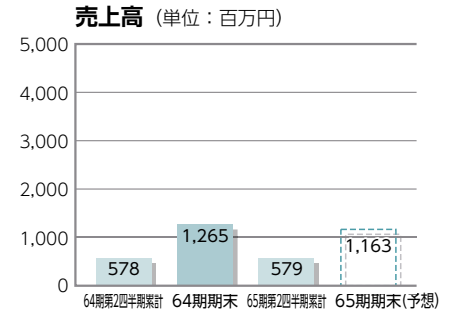
当社は情報発信のパートナーとして、「コミュニケーション エイジェント」という新しいビジネスモデルを目指しています。お客様の情報発信は多様で、その手段、ツールにも様々な選択肢があります。そこからお客様視点に立ち多様な可能性を求めて、4つのサービス形態を整備拡張しています。

BF(ビジネスフォーム)複合サービス

- コンピュータ用帳票
- 一般帳票
- シール・ラベル など



BF複合サービスは、コンピュータ用帳票に代表される機械加工を伴った帳票印刷分野です。Web化に伴うペーパーレス化が進み、市場全体での需要量の減少傾向が続いておりますが、タック系商材の伸長により、売上高は前年同四半期を1百万円(0.3%)上回る5億79百万円となりました。

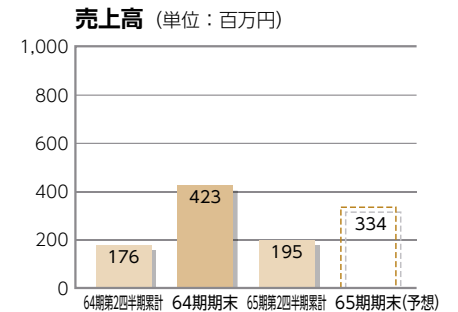


企画商印サービス

- 広告宣伝用印刷
- ディスクロージャー関連印刷
- マニュアル印刷 など



企画商印サービスは、パンフレットやカタログに代表されるビジュアル印刷物の分野です。企業の経費抑制が継続するなか、同業者間での価格競争が激しさを増すなど厳しい受注環境が続いておりますが、流通業界を中心に大型キャンペーン関連企画商材の受注が順調に推移、売上高は前年同四半期を18百万円(10.6%)上回る1億95百万円となりました。

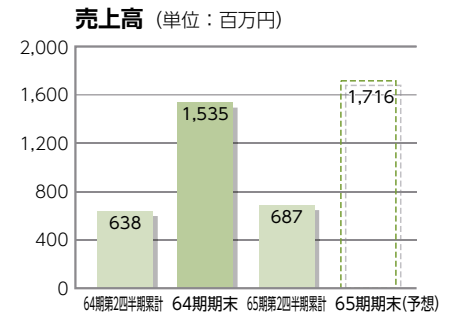


IPDP(インフォメーションプロセッシング データプリント)サービス

- 事務通信処理受託
- 帳票出力処理 など

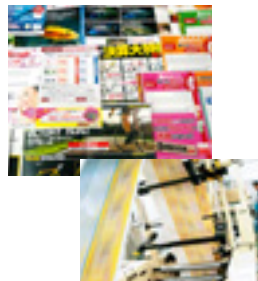


IPDPサービスは、企業が定期的に発送する請求書や官公庁が住民に発送する各種通知書など、事務通知書類のデータプリントから、封入封緘などの後処理、メール発送までを代行するサービス分野です。地方自治体や金融機関に加え、SIer、一般企業からの受注が順調に推移し、マイナンバー収集通知物の受注もあり、売上高は前年同四半期を49百万円(7.7%)上回る6億87百万円となりました。

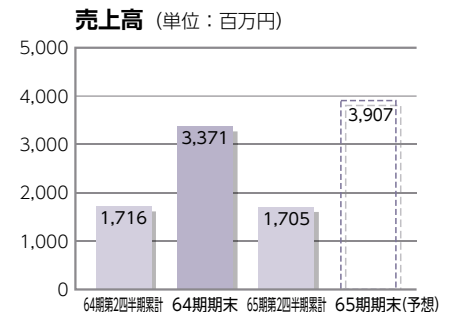


DMDP(ダイレクトメールデータプリント)サービス

- ダイレクトメール
- ダイレクトメール処理受託 など



DMDPサービスは、お客様の顧客データベースが進化するなかで、有力な販促物を提供するサービス分野として発展しました。IPDPサービス同様徹底したセキュリティ環境のもと、お客様目線での企画提案により大口顧客でのポジションアップが進みましたが、当年第2四半期は大判サイズメールの受注が微減し、売上高は前年同四半期を11百万円(0.7%)下回る17億5百万円となりました。



当社「ならでは」の取り組み

メーリングサービスの拡大

メーリングサービス事業のさらなる成長を目指し、「UDメール(大判冊子型DM)」や、多種同時ノンストップ出力・加工の「封書パック」の生産量拡大のため、技術革新を進めてまいりました。

■新設備ハイブリッドMSL導入でインラインデータプリントの技術革新

当社「ならでは製品」であるUDメールの生産性改善を目指し、加工機にモノクロ印字をインライン化した「ハイブリッドMSL」を導入し、2017年1月に本格稼働を開始いたしました。印字と加工の同時製造により、リードタイム短縮および原価改善を実現し、一日の最大生産量は1.5倍以上となりました。



加工と印字を同時に行うハイブリッドMSL

■新設備Fusion Cross導入で大幅な原価改善と定形外封筒機械封入を実現



Fusion Cross
制御ファイルで
複数案件をコントロール

メーリングパックサービスを中心としたBPOタイプの提案活動が軌道に乗りつつあるなか、封書パックの更なる生産量拡大や原価改善を目指し、また、自治体様徴税案件の受注拡大に向けて、新設備「Fusion Cross」を導入し、2016年11月に本格稼働を開始いたしました。当設備では2列面付による印字の作業時間半減や、複数案件を1つの制御ファイルでコントロールすることによる段取り作業の改善ができ、大幅な原価改善を実現しました。また、

従来は手作業だった定形外封筒への封入作業を機械封入にすることが可能となり、生産量拡大とあわせてマッチングミス防止といったセキュリティの面でも改善し、封書プラットフォームの整備が進みました。

全日本DM大賞 銅賞&審査委員特別賞クロスメディア部門を受賞

第31回全日本DM大賞(主催:日本郵便株式会社)にて、共同制作者として銅賞&審査委員特別賞クロスメディア部門を受賞しました。受賞作品は、クロスメディア展開により雑誌と連動したタイムリーな企画で当社の『UDメール』を効果的に活用いただいたものです。



UDメールを活用した受賞作品

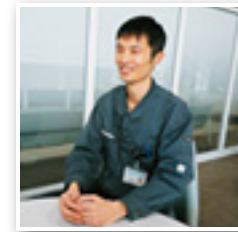


全日本DM大賞とは、日本郵便株式会社主催の、戦略性、クリエイティブ、実施効果などにおいて優れたダイレクトメール(DM)を表彰するアワードです。

人材育成の取り組み

データプリントサービスの成長を背景に、ITスキル強化を目指し2012年4月より開始した教育投資制度は、ベース資格と定めた「ITパスポート試験」の社員合格者は170名を超え、さらにITパスポートを除く各種情報処理試験では、高度情報処理技術者試験合格者22名をはじめ、のべ83名の合格者を輩出しております。また、通販業界について広く学び、販売やものづくりに活かすことを目的とした「通販エキスパート検定」の合格者も増加しており、1級合格者は11名となりました(2017年2月時点)。

■合格者の声(高度情報処理技術者試験/通販エキスパート)



ITサービスマネージャ 合格
生産技術部企画設計課 松田 康宏

—なぜこの試験にチャレンジしましたか？

前職でプログラマーやSEの仕事をしていた際に、開発だけでできていてもダメ、運用を意識したシステム開発、設計、提案が必要だと感じていたためです。世の中でもDevOpsという言葉がはやり始め、ますます意識が高くなりました。

—学習して新たな気づきはありましたか？

運用といっても奥が深いなということです。人を含めた資源の管理なくして、安定的なITサービスの提供はあり得ないということが実感できます。

—学習したことを、今後どのように活用したいですか？

当社でも次々とITサービスが生まれる中、システム同士の連携であったり、ドキュメント管理、リリース管理面にはまだまだ課題があり、サービス障害がないようにすること、障害が発生した場合でも速やかに復帰させる支援をできるように提案をしていきたいと思っております。



通販エキスパート検定1級 合格
開発制作部制作課 安達 正子

—この検定のおすすめポイントは何ですか？

上位級は「法律編」「CRM編」などに分かれており、幅広い通販業界の仕組みを自分の興味のある分野ごとに学べ、1級でも難しさよりも楽しさを感じながら勉強に取り組める点です。

—学習したことを、今後どのように活用したいですか？

業務上お客様とお話する機会はほぼないとは言え、当社の取引先の大部分を占める通販会社のお客様が、そのDMに求める成果や施策意図に対する理解を少しでも持っていれば、お客様のミスを防いだり、こちらからの有効な提案もできるかもしれません。今後そのように活用できたらいいなと考えています。

—次はどのような試験にチャレンジしたいと考えていますか？

当社ではIR製品を扱っているので、よりお客様の視点でものづくりができるように簿記などの財務系の資格取得を考えています。また、苦手克服のため情報技術の応用分野にも挑戦していきたいです。

財務諸表

■ 四半期貸借対照表

(平成29年2月20日現在)

科目	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
【資産の部】		
流動資産	2,336,784	2,518,360
現金及び預金	616,524	749,439
受取手形及び売掛金	1,054,093	1,159,258
電子記録債権	250,936	222,720
製品	102,199	91,030
仕掛品	136,071	85,108
原材料及び貯蔵品	67,301	77,236
繰延税金資産	57,114	69,436
その他	52,747	64,344
貸倒引当金	△205	△214
固定資産	4,448,301	4,193,432
有形固定資産	4,109,536	3,871,910
建物	1,269,950	1,304,046
機械及び装置	786,634	673,452
土地	965,106	965,106
リース資産	566,006	676,825
その他	521,838	252,479
無形固定資産	114,487	134,505
投資その他の資産	224,277	187,016
資産合計	6,785,086	6,711,793

単位:千円

科目	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
【負債の部】		
流動負債	1,614,476	1,701,789
買掛金	233,691	221,443
短期借入金	719,400	599,400
リース債務	185,198	227,972
未払法人税等	31,584	99,494
その他	444,602	553,478
固定負債	896,745	796,832
長期借入金	211,200	28,350
リース債務	443,702	524,165
退職給付引当金	152,665	117,880
その他	89,177	126,436
負債合計	2,511,221	2,498,621
【純資産の部】		
株主資本	4,217,659	4,194,472
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
利益剰余金	3,472,572	3,449,385
自己株式	△112	△112
評価・換算差額等	56,204	18,699
その他有価証券評価差額金	56,204	18,699
純資産合計	4,273,864	4,213,172
負債純資産合計	6,785,086	6,711,793

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期損益計算書

(平成28年8月21日から平成29年2月20日まで) 単位:千円

科目	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間
売上高	3,167,688	3,110,037
売上原価	2,389,873	2,309,422
売上総利益	777,815	800,614
販売費及び一般管理費	687,705	661,746
営業利益	90,110	138,868
営業外収益	10,917	9,831
受取利息	25	40
受取配当金	1,098	1,005
作業くず売却益	6,608	6,836
その他	3,185	1,948
営業外費用	8,036	7,942
支払利息	8,036	7,942
経常利益	92,991	140,756
特別利益	—	350
固定資産売却益	—	350
特別損失	5,078	118
固定資産除却損	5,078	64
有価証券評価損	—	53
税引前四半期純利益	87,913	140,987
法人税、住民税及び事業税	16,500	36,700
法人税等調整額	12,228	13,551
四半期純利益	59,184	90,736

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(平成28年8月21日から平成29年2月20日まで) 単位:千円

科目	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	332,361	226,169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△565,987	△127,011
財務活動によるキャッシュ・フロー	143,611	△161,479
現金及び現金同等物の増減額	△90,014	△62,321
現金及び現金同等物の期首残高	656,439	707,643
現金及び現金同等物の 四半期末残高	566,424	645,321

(記載金額は千円未満切捨)

会社情報



(前列左より) 松井、下畠、福島、松谷
(後列左より) 籠、山崎、岩木

役員 (平成29年4月25日現在)

代表取締役会長	ふくしまちお 福島理夫	常勤監査役	たちよしあき 籠芳昭
代表取締役社長	しもはたまなぶ 下畠学	監査役	いわたひろ 岩木弘
常務取締役	まつたか 松谷裕	監査役	やまぎしゅう 山崎修
取締役	まつい 松井睦		

会社の概要

商号	福島印刷株式会社
英文名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111 (代)
設立	昭和27年9月10日
資本金	4億6,000万円
従業員数	403名
事業所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都千代田区鍛冶町1丁目5番7号 江原ビルディング9F 西日本営業部 大阪市淀川区宮原5丁目1番28号 新大阪八千代ビル別館8F 富山営業所 富山市上袋708番地1 福井営業所 福井市和田東2丁目1718番地 さいたまサテライト さいたま市桜区町谷1-4-1 株式会社廣済堂さいたま工場内

株式についてのご案内

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで
 定時株主総会 11月
 基準日 定時株主総会 8月20日
 期末配当 8月20日
 中間配当 2月20日
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株
 上場証券取引所 名古屋証券取引所
 公告方法 電子公告により当社ホームページ (<http://www.fuku.co.jp/>) に掲載いたします。

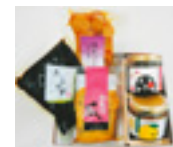
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

平成28年優待品



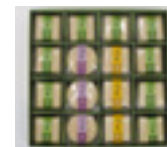
金沢五郎島金時



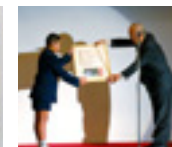
四十萬谷 特選話合せ



まつや とり野菜みそ



「不室屋」
ふやし御汁セット



ざぶん賞へ寄付